

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 9 月 10 日現在

機関番号：27101
 研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
 研究期間：2017～2019
 課題番号：16KK0033
 研究課題名（和文）米国北部都市での公民権運動の展開とユダヤ人の参加：ニューヨーク市立大学の事例（国際共同研究強化）
 研究課題名（英文）Jewish Students' Civil Rights Struggle in the North: A Case Study of Queens College, CUNY (Fostering Joint International Research)
 研究代表者
 北 美幸（KITA, MIYUKI）
 北九州市立大学・外国語学部・教授
 研究者番号：80347674
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,500,000円
 渡航期間： 13ヶ月

研究成果の概要（和文）：ユダヤ人は、アメリカ合衆国人口の2～3%を占めるに過ぎないが、1950～1960年代に展開されたいわゆる公民権運動の白人ボランティアのほぼ半数を占めていた。本研究は、アメリカ・ユダヤ人が多く居住していた北東部大都市部で展開された公民権運動について明らかにする。従来、公民権運動は、ミシシッピ、アラバマを中心として南部で展開されたものとみなされており、北東部で展開された活動は、最も研究が手薄になっている部分であった。本研究では、ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジの学生たちが1960年代に展開した運動について調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、公民権運動はマーチン・ルーサー・キング牧師が率いた運動、あるいは、そうでなくても「黒人の黒人による黒人のための」地位向上運動と捉えられがちであった。本研究は、ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジの学生の活動に着目することで、公民権運動の担い手が著名な活動家や大きな組織だけではなかったことを確認するとともに、ユダヤ人、特に大学生などの若者を中心とした所謂「リベラルな白人」の貢献があったことを明らかにした。特に、学内やニューヨーク市内で展開された活動を追うことで、より日常生活に近い場所で運動に参加した「普通の人たち」の意識や行動の実態、参加の動機などを解明できた。

研究成果の概要（英文）：About half to two-thirds of the white volunteers in the civil rights movement were Jewish. Considering the fact that the proportion of Jews among total population is about 2-3 percent, this figure underscores how enthusiastically they have participated in civil rights causes. This study explores the civil rights movement developed in Northern cities, where large percentage of American Jews resided. Previous studies have paid much attention to Southern movement, such as those happened in Mississippi and Alabama, and those happened in the North have received less attention. This study examines the civil rights causes developed by the students at Queens College, the City University of New York, in the 1960s.

研究分野：アメリカ史

キーワード：アメリカ史 公民権運動 ユダヤ人 黒人 アフリカ系アメリカ人 人種・エスニシティ 投票権 聞き取り

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 公民権運動は、アメリカ合衆国の歴史の中でも最もダイナミックな社会運動のひとつである。それは、キング牧師による「黒人の、黒人による、黒人のための」地位向上運動と見なされがちであるが決してそうではなく、その担い手には、女性や白人もいた。なかでもユダヤ人は、歴史的に長い間、差別・迫害を受けてきた経験から、差別全般の撤廃に積極的であり、国の人口の3%に過ぎないにもかかわらず、公民権運動の白人ボランティアの半数～3分の2を占めていたといわれる。たとえば、2016年、2020年の大統領選挙でそれぞれヒラリー・クリントン、バイデンと民主党候補者の指名獲得を争った「社会主義者」バーニー・サンダースはニューヨーク市ブルックリン出身のユダヤ人であるが、シカゴでの学生時代には公民権運動の集会に参加し逮捕された経験を持つ。その一方で、この課題については、アメリカ・ユダヤ人史がもっぱら「宗教史」として研究されている事情から、南部史あるいはユダヤ教学・哲学からの研究に偏り、意外にも、ボランティアの学生・若者についての研究はおこなわれてこなかったという事情がある。

(2) 北米は2015年4月から2018年3月まで(その後、2019年3月まで延長)、基盤研究(C)「聞き取り及び日記の分析を用いた米国ユダヤ人史、公民権運動史の研究」(課題番号:15K02944)の研究代表者として、アメリカ・ユダヤ人の公民権運動への参加に関する研究をおこなった。この研究では、公民権運動の参加経験者に対する聞き取り、活動時の日記、他一次史料(書簡、ノート、本人が撮影した写真等)の分析をおこないながら、彼らの参加の動機や活動の具体像、ユダヤ人としての意識等を、

南部に赴き滞在したユダヤ人学生(有権者登録運動、黒人児童のための無料学校の開設等)・ユダヤ人が多く住んでいた地元(ボストン、ニューヨーク等の北東部大都市部)での活動のふたつの面から検証した。

(3) 本研究は、上記研究を基課題として、国際共同研究強化として発展させたものである。

2. 研究の目的

(1) 当課題の研究をおこなう目的は

1. 公民権運動が多様な主体によって担われていたことを改めて確認すること。
2. 【公民権運動史の研究として】著名なリーダーでない者や、文字通りの「皆」が参加した、「下からの」運動としての公民権運動をより鮮明に描くこと。
3. 【アメリカ・ユダヤ人史の研究として】アメリカ・ユダヤ人による「社会的正義」の追求およびユダヤ人としての自己認識、さらにはユダヤ人内部の多様性を明らかにすることの3点である。

(2) 本研究は、特に、合衆国北部で展開された公民権運動に着目する。それは、1(研究開始当初の背景)で述べた既存の研究の弱点を補うことにもつながるものである。具体的には、北米幸がニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジ図書館で発掘した史料により、同大学の学生が1960年代に学内および地元(ニューヨーク市クイーンズ区)さらには南部(ヴァージニア州プリンス・エドワード郡)で展開していた活動の考察をおこなう。なお、クイーンズ・カレッジは、1960年代には全学生の約70%がユダヤ人であったと想定される。

(3) 本研究により、北部を掘り下げることで、より日常生活に近い場所で運動に参加した「普通の人たち」の意識や行動の実態、参加の動機など、南部での参加者との異同を明らかにできると思われる。先行研究によると、公民権運動といえばキング牧師という「キング中心主義」とでもいべき見方は、米国においてさえなされている。北部で主にリベラルな白人により展開されていた運動は、公民権運動史全体の中で最も研究が手薄な部分であり、本研究によりその厚みを増すことに貢献できるとと思われる。

また、海外共同研究者ジョシュア・フリーマン教授(ニューヨーク市立大学)の専門はニューヨーク労働史であり、その視点を盛り込むことで、「プロレタリアのハーバード」と呼ばれてきたニューヨーク市立大学学生の思想や行動の傾向をよりよく把握できる。

3. 研究の方法

(1) 2018年8月～2019年9月、ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジに客員研究員として滞在しながら、研究をおこなった。

(2) 個別的な考察対象として、本研究では、

1. ニューヨーク市クイーンズ区ジャマイカでの黒人児童向け無料授業の実施(1963年～)
2. 公立学校の人種統合を求めてのニューヨーク全市学校ボイコットの支援(1964年)
3. CORE(人種平等会議)クイーンズ・カレッジ支部の日常活動を取り上げることとした。また、南部での活動であり基課題からの発展となるが、同大学学生の活動として
4. ヴァージニア州プリンス・エドワード郡での黒人児童向け学校の建設・無料授業の実施(1963年)

も合わせて考察対象とした。

(3) 具体的作業としては、クイーンズ・カレッジ図書館公民権文書室において、卒業生から図書館に寄贈された史料、学生新聞(Phoenix および Knights News)、ニューヨーク市クイーンズ地区の地元新聞(Star Journal、Queens Chronicle、Long Island Press など)、CORE 関連資料、プリンス・エドワード郡公立学校閉鎖関連史料を閲覧・収集するとともに、元参加者(2020 年現在、70 代後半)の掘り出し・連絡先の割り出し、聞き取り調査、元参加者による講演・教育活動の追跡をおこなった。

(4) 2018 年 10 月、ヴァージニア州プリンス・エドワード郡のモトン博物館(1951 年に学校ストライキがあった高校の跡地)の見学および周辺地域の景観観察をおこなうとともに、同郡に最も近い都市である同州リッチモンドのヴァージニア・コモンウェルス大学、ヴァージニア州立図書館、またヴァージニア州立大学で関連資料を閲覧・収集した。そのほか、1959 年からのプリンス・エドワード郡の公立学校閉鎖時に地元の少年たちに野球を教えるボランティア活動をおこなっていたエドワード・ピープルズ氏に 2018 年 10 月、2019 年 3 月の二度、聞き取り調査をおこなった。

(5) そのほか、(3)、(4) から派生した調査研究をおこなった。

4. 研究成果

(1) 2018 年 8 月~2019 年 9 月にかけて、クイーンズ・カレッジ図書館公民権文書室を基点として、調査研究をおこなった。同大学卒業生から図書館に寄贈された史料については断片的な史料や、日付が特定できないもの、文字の読み取りができない状態のものなども多かった。学生新聞(Phoenix および Knights News)、ニューヨーク市クイーンズ地区の地元新聞(Star Journal、Queens Chronicle、Long Island Press など)については、おおよそ 1960 年から 1967 年まで関連記事を収集できている。

(2) 課題 4 の 1963 年のヴァージニア州プリンス・エドワード郡での黒人児童向け学校の建設・無料授業の実施(1963 年)は、参加者 16 名のうち、14 名がユダヤ人であった。公民権運動史の文脈では頻りに登場する 1964 年のミシシッピ州でのフリーダム・スクール(黒人自動のための無料の学校)の先駆けとして重要な事績であると思われるが、アメリカ・ユダヤ人史でも公民権運動史でも全く登場しないエピソードである。そのため、ヴァージニア州の歴史の文脈からアプローチし、同郡に最も近い都市である同州リッチモンドのヴァージニア・コモンウェルス大学、ヴァージニア州立図書館、またヴァージニア州立大学で関連資料およびリッチモンドの地元紙を閲覧したところ、1963 年秋から 1 年間、連邦の援助により公立学校への代替措置(フリー・スクール)が取られた際の記録等が見つかった。とはいえ、クイーンズ・カレッジ学生による無料授業の実施についての詳細はほとんど得られなかった。

(3) 1959 年からのプリンス・エドワード郡の公立学校閉鎖時に地元の少年たちに野球を教えるボランティア活動をおこなっていたエドワード・ピープルズ氏に 2018 年 10 月、2019 年 3 月の二度、聞き取り調査をおこなった。ピープルズ氏の示唆を受け、2018 年 11 月および 2019 年 4 月、ペンシルヴァニア州フィラデルフィアのアメリカー・フレンズ奉仕団(クエーカー教徒の団体)の文書室において資料調査をおこなった。ユダヤ教徒に限らない各種宗教組織による公民権運動の支援があったことが判明し、今後、別の課題として研究を進めていきたいと考えている。

(4) 同じくピープルズ氏の示唆により、2019 年 3 月にヴァージニア州の歴史に特化した学会に出席し、同州における人種統合(人種差別への撤廃)への抵抗について研究者と交流し、史料・研究史等の情報を得た。

(5) 2019 年 5 月に、それまでに収集できた史料に基づき、課題 1 および 4 について、学会での口頭発表をおこない、研究者からのコメントを得た。

(6) 1963 年にヴァージニア州プリンス・エドワード郡に滞在した当時の学生 6 名とコンタクトが取れ、うち 3 名とワシントン DC、ニューヨーク州マウント・キスコ、マサチューセッツ州チェスナット・ヒル等で聞き取りをおこなった。他の 3 名についても、今後、書面などによる調査を受けて頂ける予定である。

(7) その他、1962 年度のクイーンズ・カレッジの学生新聞の編集長、当時の在學生にニューヨーク市内で聞き取りをおこなった。

(8) 米国滞在中の成果としては主に上記の通りである。資料収集先とのコンタクト、史料の閲覧および複写、聞き取り対象者の連絡先の割り出しや聞き取りの旅程の調整、調査の実施に注力していたため、口頭での発表および活字化を今後進めていく。

研究目的 1 ~ 3 に照らすと、クイーンズ・カレッジ学生の 1960 年代の事例により公民権運動の担い手の多様性の指摘（課題 1）および「下からの運動」としての公民権運動を描くこと（課題 2）については達成できる方向であるが、課題 3 については、当事者のユダヤ人性と参加の動機についてはいまだ十分には分析できていない。それは例えば、カトリックの団体が主催するプログラムにユダヤ人の学生が多数参加していたりと、当事者が自らのユダヤ人性をほとんど意識していなかったように思われる点が観察されるからである。今後、追加の聞き取りや資料により考察を続けていく必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Miyuki KITA	4. 巻 22
2. 論文標題 A Foot Soldier in the Civil Rights Movement: Lynn Goldsmith with SCLC-SCOPE, Summer 1965	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Southern Jewish History	6. 最初と最後の頁 151-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Miyuki Kita
2. 発表標題 Bringing “Tikkun Olam” across the Border: Mississippi Freedom Summer through the Eyes of a Queens College Jewish Student
3. 学会等名 42nd Annual Southern Jewish Historical Society Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miyuki Kita
2. 発表標題 The Power of Immigrants to Make America Great: With Special Reference to Jewish Commitment to the Civil Rights Movement
3. 学会等名 Multinational Institute of American Studies 2019 Conference, New York University Florence, Italy（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miyuki Kita
2. 発表標題 Activism at Home: Queens College Students and the Civil Rights Movement
3. 学会等名 The Third Annual Conference on American Political History, Lebanon Valley College Center for Political History, Annville, PA,（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北美幸
2. 発表標題 アメリカ・ユダヤ人の公民権運動への参加 謳われざる小さな活動の3つの事例
3. 学会等名 関西アメリカ史研究会第257回例会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 阿部容子、北美幸、篠崎香織、下野寿子編、北美幸	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 224 担当箇所50-67
3. 書名 『『街頭の政治』としての米国の公民権運動』 『『街頭の政治』をよむー国際関係学からのアプローチ』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	フリーマン ジョシュア (Freeman Joshua)	ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジ・歴史学科・教授	